

山口と津和野

右城 猛

まえがき

日本技術士会が主催し、各県の持ち回りで毎年開催されている中四国支部の「産官学と技術士との合同セミナー」が、今年は「食の安全安心」をテーマに山口市で開催された。平成 18 年に高知市で開催した折には、山口県技術士会から多くの会員に来ていただいていたので、観光を兼ねて家内と一緒に参加した。

自宅を 5 時 45 分に車で出発。途中福山 SA で朝食をとり、山口に着いたのは 11 時前。市内観光して 14 時から「産官学と技術士との合同セミナー」に出席。翌日は、津和野を観光してきた。

山口市内観光

今年の 5 月の連休に、一泊二日の観光で山口に来たのであるが、千円効果で高速道路が予想以上に混雑したため市内観光をする時間がとれなかった。セミナーが始まる 14 時まで 3 時間の余裕があったので、常栄寺、瑠璃光寺、山口ザビエル記念聖堂の 3 箇所を観光することにした。

常栄寺（じょうえいじ）



常栄寺の三門。左側には雪舟の胸像がある。

常栄寺は大内政弘の別荘として建てられたものであるが、政弘が母の菩提を弔うため妙貴寺という寺とし、さらに毛利隆元の菩提寺となった際に常栄寺と改称されている。



常栄寺僧堂の看板がかかった鐘楼門。門を潜った左側が枯山水（かれさんすい）の日本庭園になっている。



鐘楼門に入る手前の右側にある漆喰の土蔵



本堂の南側には、枯山水の庭園がある。池や水を用いず石や砂などにより山水の風景を表現する庭園様式である。



本堂の北側には国指定の史跡名勝となっている雪舟庭(せっしゃうてい)がある。本堂の廊下に座って庭をじっと眺めていると時がたつのを忘れてしまいそうである。

瑠璃光寺(るりこうじ)



瑠璃光寺は、大内氏全盛期の文化を伝える曹洞宗の寺院。国宝の五重塔がある。



天井から滑車で吊られている数珠の珠を1個ずつ落としていき、8個で止めると煩惱が消える。



山口ザビエル記念聖堂。フランシスコ・ザビエルの来日(山口での布教活動)400年記念として1952年(昭和27年)に建てられたが、1991年(平成3年)の失火により全焼。現在の建物は1998年(平成10年)に再建された。

山口の食に親しむ会



「産官学と技術士との合同セミナー」の後、会場を「キッチンモンマルトル」に移し、有機米で作ったおむすび、有機野菜を使ったサラダ、おでん、天ぷらなどの料理を食べ、純米酒「長州学舎」などをたんのうしながら、食を語り合った。



料理に使われた有機米と有機野菜は、セミナーのパネルディスカッションでパネリストをされた神徳治雄氏(建設部門技術士)が手間暇を掛けて生産したもの。

純米酒「長州学舎」は、今年の3月に完成した山口大学ブランドの純米酒大吟醸。山口県で開発された酒米「西都の雫」を、山口大学の水田で栽培し、萩市の岩崎酒造に4合瓶2000本の製造を委託し、学内の生協で、1本2500円で販売しているそうである。

糖尿病のため日本酒は飲まないことにしていたが、あまりの美味しさにグラスに3杯ほど飲んでしまった。フルーティーなとてもよい香り。甘すぎないすっきりとした味が最高。銘柄もラベルのデザインも素晴らしい。



パネルディスカッションでパネリストをされた(株)豆子郎の田原文栄常務取締役から「生の豆子郎(とうしろ)」が二袋差し入れされた。参加者でジャンケンをしたところ、私が一番になり一袋を頂いた。写真は(株)ケイズラブの河内義文社長。この店のオーナーと友人とのこと。



キッチンモンマルトルの入り口



この夜は湯田温泉にある「スーパーホテル」に泊まる。宿代は二人で6980円。ホテルには温泉がないので、近くの足湯で旅の疲れを癒す。

津和野観光

「山口の食に親しむ会」の席で、(株)ケイズラブの河内義文社長から、「津和野駅の近くにある安野光雅美術館は素晴らしい」と聞いていたこともあり、津和野を観光して帰ることにした。

山口から津和野までは一般国道9号を車で約1時間の距離。津和野は二人とも初めての街で、以前より一度は行ってみたいと思っていた場所である。

津和野町観光協会のホームページで紹介されていた「芸術と掘割の路」コースを参考にして散策することにした。津和野駅から鯉の米屋、本町通り、鯉掘割がある殿町、安野光雅美術館などを巡るコースである。



津和野観光マップ



津和野駅の前には、「貴婦人」の愛称で親しまれる蒸気機関車「C571」が展示されている。



店の前に「鯉のおる米屋です 遠慮なくお入り下さい」と書かれて看板があったので、遠慮なく中庭に入らせてもらう。



木彫りの「鯉のおる米屋 吉永」という看板がかかった店が「鯉の米屋」。

店の奥に大きな池があり、色とりどりの錦鯉が群れをなして泳いでいる。



店の奥に入っていくと中庭に池があり、たくさんの錦鯉が泳いでいた。100円で売られていた餌を買ってまくと、競うようにして集まってくる。

かつては津和野の家々にはこのような鯉を飼う池があり、観賞用として愛でていたようである。



漆喰の土蔵がある本町通り



殿町のカトリック協会



殿町には、白壁の塀に沿って掘割と呼ばれる幅が約 1.5m の水路が掘られ、津和野川から水がひかれ、色とりどりの大きな錦鯉が数千匹泳いでいる。



掘割の鯉は、藩政時代に非常時の食料として飼われたのが始まりのようであるが、津和野を代表する風景となっている。



津和野町の役場の入り口



弥栄神社と御神木のケヤキ



太鼓谷稲成神社参道入り口の鳥居



参道の千本鳥居。参道の途中に「御寄進のお願い」と書かれた看板が立てられていた。千本大鳥居 1 基 15 万円，千本並鳥居 1 基 3 万円などと書かれていた。



日本五大稲荷神社の 1 つに数えられて太鼓谷稲成神社の社殿



名物の菓子「源氏巻」を売っている店先には、涼を取るために氷を入れた桶が置かれていた



「沙羅の木」という店で津和野名物の和菓子

「源氏巻」を買って、コーヒーを飲みながら一休み。「源氏巻」を売る店は多いが、味は店によって微妙に異なるようである。



津和野駅の近くにある津和野町立安野光雅(あんのみつまさ)美術館で、安野光雅の数々の作品や四季折々の津和野の星空を写すプラネタリウムを見学する。



12 時 50 分。運良く SL「山口号」を見ることができた。昭和 48 年に姿を消していたが昭和 54 年復活。現在 3 月末から 11 月末まで土、日、祭日に「新山口」から「津和野」までの 63km を約 2 時間かけて走っているようである。

あとがき

昼食は「遊亀」という店で津和野定食を食べた。鯉の洗い・鯉のこく汁・こんにゃくさしみ・葉わさび・丹波の黒豆・ピーナッツ豆腐・山菜の焚物・和え物・ふきめしがセットになっていた。

店内の掘割を泳いでいる錦鯉を鑑賞しながら鯉料理を食べるのは変な気分であるが、味は満足。

帰りは、国道 187 号を通過して吉賀町に出て、六日市 IC から中国自動車道に入り、広島北 JC から広島自動車道を経由して山陽自動車道を走って帰ってきた。津和野から自宅までの所要時間は休憩を含めて 5 時間であった。(2009.9.5 記)